

肺がん患者・家族に対する 調査結果報告書

2016年5月31日
株式会社QLife

■ 本調査に関するお問い合わせ先

株式会社QLife QLife編集部 田中智貴
TEL : 03-3500-3235 / E-mail : info@qlife.co.jp

調査背景

肺がんは2013年の部位別がん死亡数で最も多い（国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」より）。病気別の5年相対生存率ではステージⅠで83.6%、ステージⅡで49.0%、ステージⅢで22.9%、ステージⅣで5.0%となっている。（全国がん（成人病）センター協議会の生存率共同調査 KapWeb ※2016年2月集計より）。その背景には、副作用による中止等の他に、薬剤に耐性が生じ、効果が認められなくなるという、薬剤耐性による中止がある。近年、肺がん領域では分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を始めとする多くの薬剤が開発され、従来の殺細胞性抗がん剤に加え、これらを順番に使う逐次療法により、生存期間の延長が期待されている。そこで、本調査では、「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ことが患者や患者家族の治療意識にどのような影響を与えるかを調査した。

結果概要

◆患者の7割が最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、「次の抗がん剤がある」ことを聞いて、治療の意欲が向上する

医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いた際の患者の治療意欲の変化「とても上がった」11.7%、「上がった」56.7%

◆「次の抗がん剤がある」説明を5割の患者が受けている

◆実は9割の患者が治療開始時に「次の抗がん剤がある」ことを知りたいと考えている

抗がん剤治療を開始時「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを、医師から聞いたこと「ある」48.0%。

最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも次の抗がん剤があることを、最初の抗がん剤治療をする際に医師から説明してほしいと思うか。「思う」88.0% & 「思わない」12.0%

◆患者家族の7割が「次の抗がん剤がある」ことが分かると「安心する」

もし医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを患者家族が聞いたら…「とても安心すると思う」15.2%、「安心すると思う」53.6%

◆患者の治療意欲向上の源、最も多かったのは「信頼できる医師との絆・出会い」

「信頼できる医師との絆・出会い」が最も多く（83.0%）、次いで「新しい治療法の出現」（56.0%）、「家族・友人からの励まし・支え」（43.0%）となった。

調査実施概要

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象： 抗がん剤（分子標的薬含む）治療を行ったことがある肺がん患者とその家族
- (2) 有効回収数： 患者100人、患者家族300人
- (3) 調査方法： インターネット調査
- (4) 調査時期： 2016/4/27～2016/5/2

▼調査対象内訳

(1) 性別・年代／患者（n=100）

	男性	女性	n	男性	女性	%
20代	1	0	1	1.1%	0.0%	1.0%
30代	0	1	1	0.0%	9.1%	1.0%
40代	7	5	12	7.9%	45.5%	12.0%
50代	13	3	16	14.6%	27.3%	16.0%
60代	46	2	48	51.7%	18.2%	48.0%
70代	21	0	21	23.6%	0.0%	21.0%
80代	1	0	1	1.1%	0.0%	1.0%
総数	89	11	100	100.0%	100.0%	100.0%

患者家族（n=300）

	男性	女性	n	男性	女性	%
20代	1	6	7	0.6%	4.2%	2.3%
30代	18	32	50	11.5%	22.4%	16.7%
40代	54	50	104	34.4%	35.0%	34.7%
50代	52	38	90	33.1%	26.6%	30.0%
60代	25	11	36	15.9%	7.7%	12.0%
70代	7	5	12	4.5%	3.5%	4.0%
80代	0	1	1	0.0%	0.7%	0.3%
総数	157	143	300	100.0%	100.0%	100.0%

(2) 居住地／患者（n=100）

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
7.0%	1.0%	0.0%	2.0%	1.0%	2.0%	2.0%	2.0%	0.0%	2.0%	5.0%	5.0%
東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
12.0%	6.0%	1.0%	0.0%	1.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.0%	3.0%	8.0%	2.0%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
2.0%	4.0%	11.0%	5.0%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.0%	2.0%	1.0%	0.0%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	1.0%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	

患者家族（n=300）

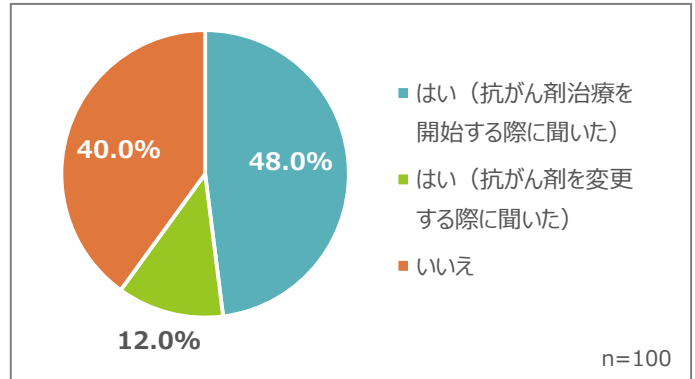
北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県
6.7%	1.0%	0.7%	2.7%	0.3%	0.7%	1.7%	1.7%	0.7%	1.7%	3.3%	3.3%
東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
10.3%	6.7%	2.3%	1.3%	2.0%	0.0%	0.0%	1.0%	2.3%	1.3%	6.3%	1.3%
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県
1.3%	3.0%	10.7%	5.3%	1.3%	0.0%	0.3%	1.3%	1.7%	3.3%	1.3%	0.7%
香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
1.0%	1.0%	0.0%	3.7%	1.0%	1.0%	0.3%	0.3%	0.7%	0.3%	1.0%	

調査結果【患者／n=100】

【Q1】「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを、あなたは医師から聞いたことはありますか。

患者の48.0%が抗がん剤治療を開始する際に聞いたと回答。抗がん剤を変更する際に聞いたのは12.0%だった。

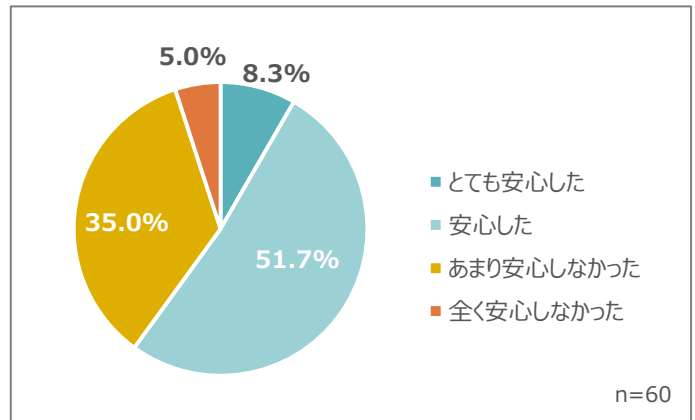
n=100		
	n	%
はい（抗がん剤治療を開始する際に聞いた）	48	48.0%
はい（抗がん剤を変更する際に聞いた）	12	12.0%
いいえ	40	40.0%
総数	100	100.0%



【Q2】医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いて、あなたは安心しましたか。※Q1で「はい」と答えた人のみ回答

60.0%の患者が「とても安心した」「安心した」と回答した。

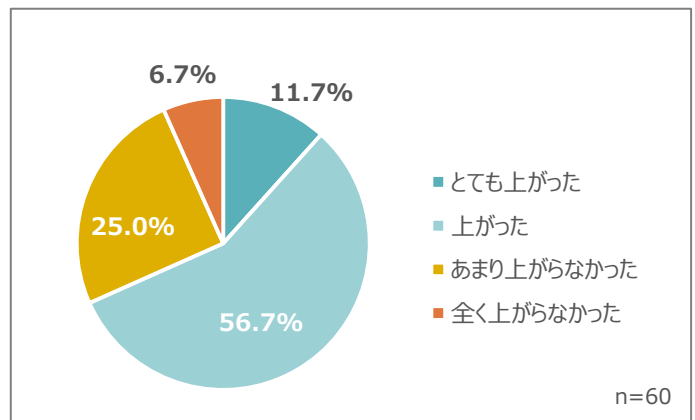
n=60		
	n	%
とても安心した	5	8.3%
安心した	31	51.7%
あまり安心しなかった	21	35.0%
全く安心しなかった	3	5.0%
総数	60	100.0%



【Q3】医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いて、あなたの治療への意欲は上がりましたか。※Q1で「はい」と答えた人のみ回答

68.4%の患者が「次の抗がん剤がある」ことを聞いて、治療意欲が「とても上がった」「上がった」と回答した。

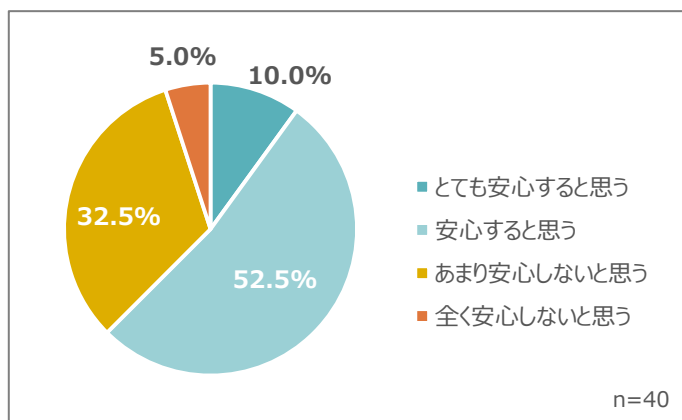
n=60		
	n	%
とても上がった	7	11.7%
上がった	34	56.7%
あまり上がらなかった	15	25.0%
全く上がらなかった	4	6.7%
総数	60	100.0%



【Q4】もし医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いたら、あなたは安心すると思いますか。 ※Q1で「いいえ」と答えた人のみ回答

62.5%の患者が「とても安心すると思う」「安心すると思う」と回答した。

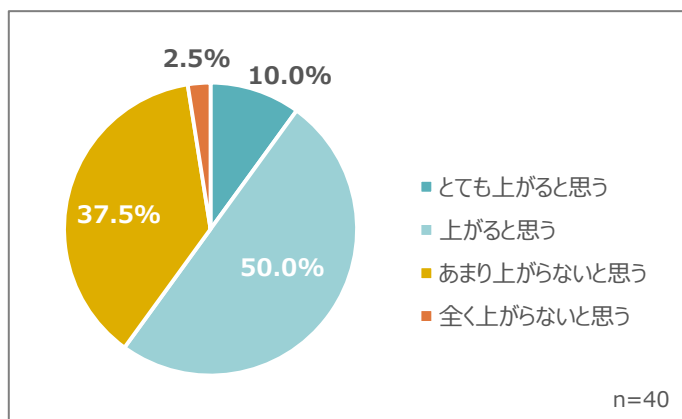
n=40		
	n	%
とても安心すると思う	4	10.0%
安心すると思う	21	52.5%
あまり安心しないと思う	13	32.5%
全く安心しないと思う	2	5.0%
総数	40	100.0%



【Q5】もし医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いたら、あなたの治療への意欲は上がると思いますか。 ※Q1で「いいえ」と答えた人のみ回答

60.0%の患者が「次の抗がん剤がある」ことを聞いたら、治療意欲が「とても上がると思う」「上がると思う」と回答した。

n=40		
	n	%
とても上がると思う	4	10.0%
上がると思う	20	50.0%
あまり上がらないと思う	15	37.5%
全く上がらないと思う	1	2.5%
総数	40	100.0%

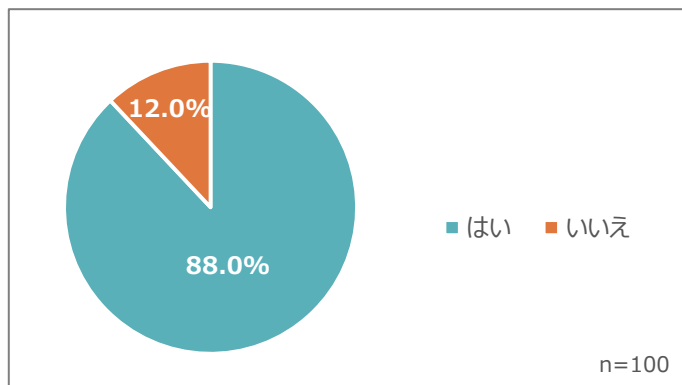


【Q6】最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも次の抗がん剤があることを、最初の抗がん剤治療をする際に医師から説明してほしいと思いますか。

88.0%の患者が最初の抗がん剤治療を行う際に説明してほしいと回答した。

n=100

	n	%
はい	88	88.0%
いいえ	12	12.0%
総数	100	100.0%

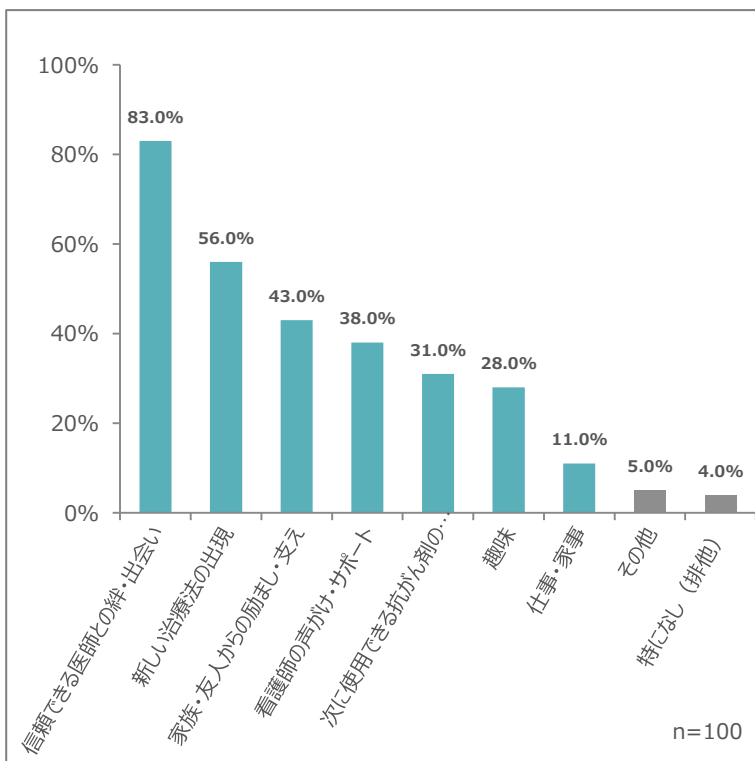


【Q7】 どういうことがあなたの治療への意欲向上につながっていますか。もしくはつながると思いますか。【複数回答】

「信頼できる医師との絆・出会い」が最も多く（83.0%）、次いで「新しい治療法の出現」（56.0%）、「家族・友人からの励まし・支え」（43.0%）となった。

n=100

	n	%
信頼できる医師との絆・出会い	83	83.0%
新しい治療法の出現	56	56.0%
家族・友人からの励まし・支え	43	43.0%
看護師の声かけ・サポート	38	38.0%
次に使用できる抗がん剤の存在	31	31.0%
趣味	28	28.0%
仕事・家事	11	11.0%
その他	5	5.0%
特になし（排他）	4	4.0%
総数	100	100.0%



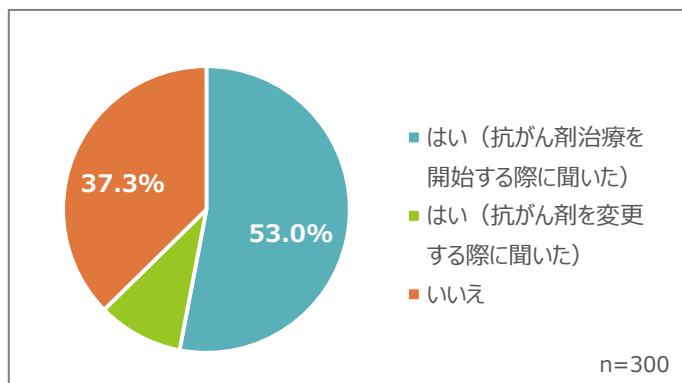
調査結果【患者家族／n=300】

【Q1】「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを、あなたは医師から聞いたことはありますか。

患者家族の53.0%が抗がん剤治療を開始する際に聞いたと回答。抗がん剤を変更する際に聞いたのは9.7%だった。

n=300

	n	%
はい（抗がん剤治療を開始する際に聞いた）	159	53.0%
はい（抗がん剤を変更する際に聞いた）	29	9.7%
いいえ	112	37.3%
総数	300	100.0%

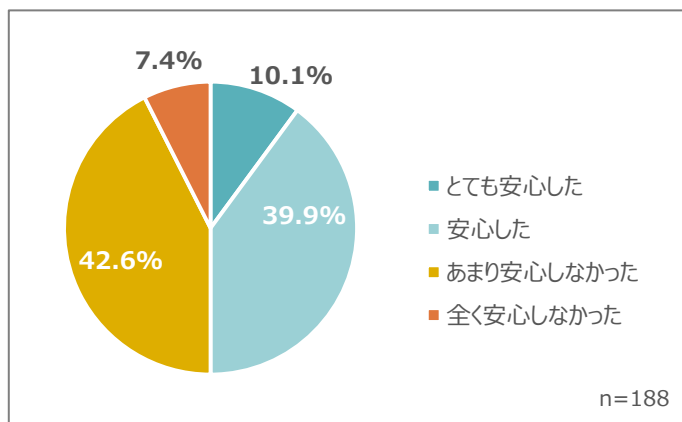


【Q2】医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いて、あなたは安心しましたか。 ※Q1で「はい」と答えた人のみ回答

50.0%の患者家族が「とても安心した」「安心した」と回答した。

n=188

	n	%
とても安心した	19	10.1%
安心した	75	39.9%
あまり安心しなかった	80	42.6%
全く安心しなかった	14	7.4%
総数	188	100.0%

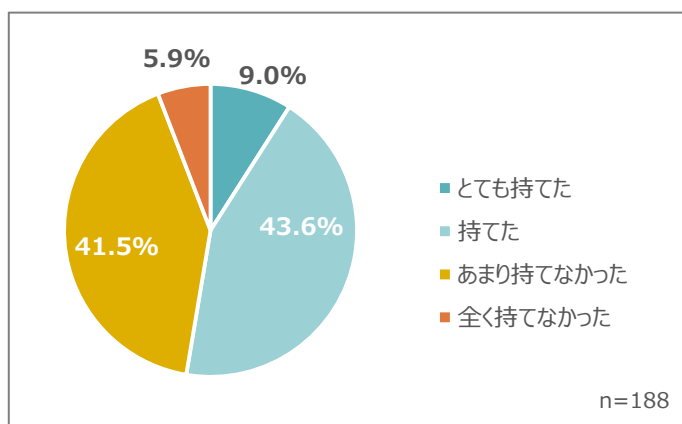


【Q3】医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いて、あなたは治療への期待を持ってましたか。 ※Q1で「はい」と答えた人のみ回答

52.6%の患者家族が「次の抗がん剤がある」ことを聞いて、治療意欲が「とても上がった」「上がった」と回答した。

n=188

	n	%
とても持てた	17	9.0%
持てた	82	43.6%
あまり持てなかった	78	41.5%
全く持てなかった	11	5.9%
総数	188	100.0%

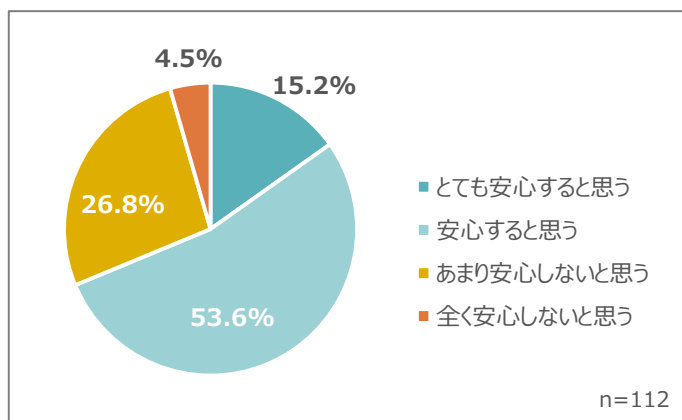


【Q4】もし医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いたら、あなたは安心すると思いますか。 ※Q1で「いいえ」と答えた人のみ回答

68.8%の患者家族が「とても安心と思う」「安心と思う」と回答した。

n=112

	n	%
とても安心と思う	17	15.2%
安心と思う	60	53.6%
あまり安心しないと思う	30	26.8%
全く安心しないと思う	5	4.5%
総数	112	100.0%

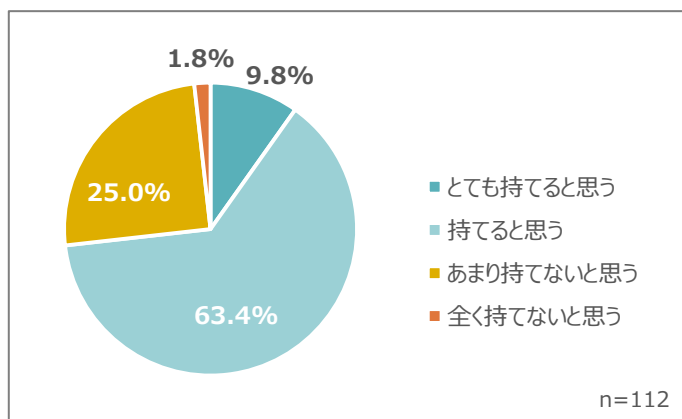


【Q5】もし医師から「最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも、次の抗がん剤がある」ということを聞いたら、あなたは治療への期待を持てると思いますか。 ※Q1で「いいえ」と答えた人のみ回答

73.2%の患者家族が「次の抗がん剤がある」ことを聞いたら、治療意欲が「とても持てると思う」「持てると思う」と回答した。

n=112

	n	%
とても持てると思う	11	9.8%
持てると思う	71	63.4%
あまり持てないと思う	28	25.0%
全く持てないと思う	2	1.8%
総数	112	100.0%

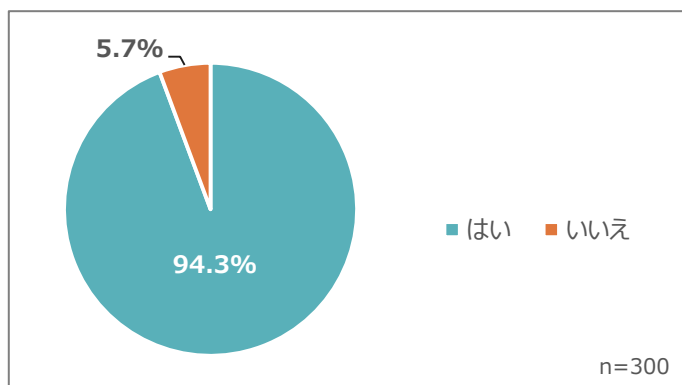


【Q6】最初に使用する抗がん剤が効かなくなった場合でも次の抗がん剤があることを、最初の抗がん剤治療をする際に医師から説明してほしいと思いますか。

94.3%の患者家族が最初の抗がん剤治療を行う際に説明してほしいと回答した。

n=300

	n	%
はい	283	94.3%
いいえ	17	5.7%
総数	300	100.0%



【Q7】どういたことが患者さん本人の治療への意欲向上につながると思いますか。【複数回答】

「信頼できる医師との絆・出会い」が最も多く（89.3%）、次いで「新しい治療法の出現」（64.3%）、「家族・友人からの励まし・支え」（54.7%）となった。

n=300

	n	%
信頼できる医師との絆・出会い	268	89.3%
新しい治療法の出現	193	64.3%
家族・友人からの励まし・支え	164	54.7%
次に使用できる抗がん剤の存在	145	48.3%
看護師の声かけ・サポート	143	47.7%
趣味	86	28.7%
仕事・家事	58	19.3%
その他	12	4.0%
特になし（排他）	3	1.0%
総数	300	100.0%

